

月刊 わらじ 12月号

特集 私の三大ニュース

二〇二五年十一月一日 毎月一回一日発行 通巻五六六号
一九八四年十月四日 第三種郵便物認可 頒価二〇〇円



11月22、23日に開催された第22回障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会 in 埼玉の第4分科会「共に学ぶと共に働くの間を考える」の風景。

5人の報告者は、埼玉の連絡会や社团、ネットワークではおなじみの顔ぶれ5人。そして、この分科会の参加者は特に多く、障害当事者の割合が高かった。

門坂:普通学級にこだわって来て、最終的には社会に居場所を作って暮らしていけるようにとの願い。地域活動でバザーに協力してくれた会社の社長がうちへ来るかと。それから20年余り。

松山:高校卒業時、高校の教員ががんばってくれて、家の近くのセイコーの工場で働いた。300人位の半分程が障害者。同じ給料、皆ちゃんと働いてと。新しい上司が来た時は私が教えた。

前田:中学の時、連絡会と出会い、高校で学びさらに大学へ。バイト先で卒業後も働き続けている。先日上司に騙され退職届を書かされかけた。来年初め、新しい会社を受けてみるつもり。

森住:県教委の障害者枠の非常勤、応募したら中学の支援員に採用された。通常学級の障害生徒が修学旅行で、常時親と一緒にはおかしいと県交渉で話したら、退職届を書かされた。

日吉:小学校は養護学校で中学、高校と地域の学校へ行った。障害者枠で就職したが、仕事は干され、給料泥棒と言われた。「職場参加」は職場にまず入って行って、顔が見える関係になり、受け入れた方も、入って行く方も、お互いに何ができるのかなって、歩み寄りながら考えていく活動。

特別な雇用・就労の場が増えている中、職場・地域でのせめぎあいを語る参加者達の言葉

「私も自分で生きていくとかわかってきたので」、「仕事はその人がやりたいことをやればいい」、「12年間市職員として働いたが体を壊してクビに。若い頃は就労幻想を抱きやすい」、「学校用務員さんの仕事を障害者雇用にさせたい。区役所ロビーの案内係もいい」、「ビル管理の仕事きついが人間関係はよい」、「自分の現場でもパワハラ、村八分がある」、「障害者と健常者を分けてきたので防災の話になるとわからないことが多い」、「7年間一緒に働いてやっとなんかやすくなった」、「やっぱり街に生きるゼミ 準備中」、「一人暮らし又は彼女と暮らしたい」

障害児を普通学校へ・全国連絡会全国交流集会 in 埼玉

たくさんの方が集まりました！

はじまりは2年前の広島集会。夕食交流会のとき、次回は埼玉でと言われて、後方の席では「とてもたいへん、できません！」前方の席では「やります！」と、なしくずし的に埼玉開催が決まりました。波乱万丈の幕開けです。

まず会場がなかなか決まりません。交通の便の良いさいたま市あたりでといっても、お金があまりかからないで全国集会ができる広い会場なんて見つかりません。やっと岩槻駅東口コミュニティセンターと決まって、岩槻駅東口から徒歩1分と便利ですが、今度は参加者が一堂に集える懇親会の会場がありません。結局、第2会場を設けましたが、こんなに懇親会のことで悩むなんて。交流ということで懇親会は大事なのですが、メインのシンポジウムや分科会よりも悩まされたような。

もちろん、シンポジウムや分科会をどのように組み立てるかについてもさんざん悩みました。以前だと「普通学級に入ろう」とか「高校に行こう」ということで、じゃあ誰に報告してもらおうかというように進めていけばよかったのですが。学校も分けられ、地域でも分けられ、働く場も分けられている現実から、「出会えないのはなぜ？」というテーマでシンポジウムや分科会の内容を作っていました。でも、なんだかモヤモヤしたかんじで、ほんとうにこれでやれるのだろうかというのが本音でした。みんなでモヤモヤしながらも、分離が進んでいることへの危機感は共通していたので、シンポジストや報告者やファシリテーターの小国喜弘さんやコメントーターの三井絹子さんなどみなさんの力で形ができていきました。(サラッと書いてしまいましたが、たいへんだったと思います。)

受付や会場設営やZOOMなど役割分担もこれまたたいへんで、協力団体の人やボランティアのみなさんでがんばってくれました。(ここもサラッと書きました。)

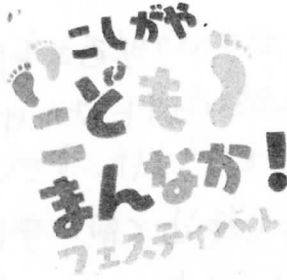
当日はきれいな晴天。穏やかに進むであろうと期待しましたが、インフルエンザなどでキャンセルが出たかと思うと、たくさんの当日参加があつて、受付もたいへん。参加費を払っていることを忘れてまた払う人がいたり、名札を間違える人がいたり、高齢化社会なんですね。高齢と病気の只中で準備もしてきましたので。

「のとを忘れない。26.1」イベントのカンパを集めたり、全国のみなさんとさまざまな交流がありました。印刷や前日の準備などわらじの会の皆さんにたいへんお世話になりました。ありがとうございました。(実行委 竹迫)

出会いたい、会いましょう

少し前の話ですが、インクルーシブ教育を考える会が10月4日(土)に越谷市役所で行われた「こどもまんなかフェスティバル」に参加したので、お手伝いに行ってきました。

こども家庭庁は、こどもが健やかに成長できる社会づくりに寄与する個人、団体をこどもまんなか応援サポーターと位置付ける取り組みを行っています。越谷市もそのサポーターとなることを宣言したのをきっかけに、こどもまんなかフェスティバルというイベントが始まったそうです。越谷市役所のエントランス棟、駐車場で、ダンボール迷路やお絵描きなどの遊び場、動物ふれあいコーナー、交通安全教室などのイベントが行われ、その中の「ままマルシェ」にインクルーシブ教育を考える会も出店しました。



ままマルシェでは、市内の子育て中のお母さん、子どもなど様々な人がお店を開いていました。インクルーシブ教育を考える会は会の活動、障害のある子どものことを少しでも知ってもらおうと、お菓子ルーレットとして出店するかたわら、補装具の展示、子供用車いすや歩行器の展示体験を行いました。

天候が今一つだったにもかかわらず、大勢の親子連れが訪れて様々なイベントを楽しんでいました。車いすや歩行器の展示場所の前を通り過ぎる親子連れもたくさんいました。何人かの人たちは気づいてちょっと見てくれますが、大体の親御さんはそのまま通り過ぎていきます。一方、子どもたちはというと、車いすや歩行器に興味津々というお子さんが多かったように思います。子どもって、本当に好奇心のかたまりだなーと実感しました。実際、私が手伝っている間にも、何人かのお子さんが試乗にチャレンジしていました。



インクルーシブ教育を考える会がこのイベントに参加したのは、障害のある子どものことをもっと知ってもらいたいからで、実際に何人かのお子さん、親子連れと出会うことができました。特に、子どもたちはなんのてらいもなく車いすに触ったり近づいてきます。やっぱり小さいころから出会うことが大事なんじゃないかと、ぼんやり考えることができた日でした。(中山)



これからの予定 (連絡・問い合わせ先 mogucchi.s@yahoo.co.jp)

みんな一緒にクリスマス 12月21日(日)in 春日部市民文化会館展示室

午前11時から午後3時まで

参加費500円、プレゼント(300円相当)をご持参ください。飲み物、お菓子の差し入れ大歓迎!!

TOKOミニおしゃべり会 1月9日(金) 午前10時半から in くらしセンターべしみ